

令和元年度第1回香川県教育センター運営協議会 議事録

【日 時】 令和元年7月18日（木）13：30～15：00

【場 所】 香川県教育センター 3階第2研修室

【出席者】 委員10名（欠席1名）、教育センター所長外4名

※傍聴人 無し

【議事概要】 令和元年度事業について

【主な質疑応答】

○組織・予算について

委員	オンライン研修は忙しい先生方には有り難い研修だと思っていたのですが、今年は予算がついていないのは、要望はしたけど、つかなかったのですか。
事務局	昨年度の予算は、当年度限りの予算で、継続してつく予算ではなかったもので、今年度予算はありません。しかし、オンライン研修サイトの運営は引き続き行っています。予算はついてないですが廃止したわけではありません。
委員	安心しました。
事務局	なお、今後もコンテンツを充実するために工面してやっていきます。

○調査研究事業について

委員	本年度の調査研究内容の1の「個別最適化された新たな学びに関する調査研究」のところについてですが、昨年度まで行われていた、アクティブラーニングに視点をおいた調査研究については、協力学校があり、そこで調査研究が進められたようですが、本年度はそのような協力学校があるのですか。
事務局	6校あります。昨年の研究を引き継ぎながら、なお且つ新しい視点を入れてという研究になっています。文科省のテーマも含めて、誰一人取り残すことなく子どもの力を最大限にということがうたわれていますので、授業についていけない子ども達、悩んでいる子ども達一人一人に目を向けながら、個別に子ども達に対応することにも焦点をあてて、それが高まることがアクティブラーニングにもつながると考えています。
委員	2番の情報教育に関する調査のところ、小学校におけるプログラミング教育とあるのですが、どの教科においてもどこかで必ず用いるのですか。
事務局	プログラミング教育のは論理的思考力、数学的思考力の育成を目的としています。算数とか総合的な学習の時間とかで実践されます。
事務局	センターではプログラミング教育を充実させるためにも、インターネット接続状態の1人1台タブレットの整備が大切だろうと考えています。市町の学校においては、インターネット接続環境でタブレットを用意できないという学校があると思いますので、センターとしては、50台のタブレットとポータブルWi-fiを学校に持ち込み、インターネット接続状態で1クラス分、1人1台タブレットを使って、プログラミングの学習ができるように用意をしています。

事務局	協力校もタブレットを使って、それを有効に利用していけたらと思っています。
委員	それを配って、授業をするのは、実際先生方ですが、先生方の研修は、だいぶ進んでいるということですか。
事務局	今、行っているのですが、まだ手さぐり状態です。かなり先生方の危機感、あせりというのも高まっていて、研修への関心はかなり高いです。
事務局	昨年度の春頃は、プログラミングの研修を行いますと案内しても、申し込みも少なかったのですが、昨秋から急激に増えてきました。今年になり要望が多くありがたいです。
事務局	今年の希望研修は、定員オーバーで断らざるをえない状況です。
事務局	この半年ぐらい、課題意識は高まってきたと思います。センターとしては、研修サポート事業を通して、指導主事を学校等へ派遣して研修していますし、センターでの研修も行っています。
委員	小学生のプログラミング教育というのは、なかなかイメージしにくいところがあるのですが、先行実施とか、実験的に行っている等の具体的な事例はないのでしょうか。
事務局	今年はセンターの研究会でも、プログラミング教育について発表します。ロボットをプログラミングし、動くものや、キャタピラがついた車を走らせるもの等、研修で扱いながら、その成果を伝えていこうと思います。子どもたちに教えるというよりは、先生方に学んでもらい、指導力を高める支援となればいいと考えています。

○教職員研修事業について

委員	中堅教諭等の研修が始まっていますが、小学校は若い先生が増えていて、多くの教員が中堅教諭研修の対象者となっています。同じ研修を受ける教員が学校に複数いる。絶対に参加しないといけない研修には、複数人が1つの学校から出かけてしまうので、学級担任が足りない状況になります。同じ日多くの教員が、研修に参加すると、非常に学校の運営上困るので先程お話のあったように選択研修の幅が広がると出る日にちもずれるので、その辺はとてもありがたいと思います。そのあたりの現場の苦しい状況を加味しながら研修計画を立てていただけるとありがたいと思いますので、よろしくお願いいたします。
事務局	同じ学校で若い方が多く、多いところでは4人とか5人とかいうところもあり、わざわざ研修受講を1年ずらしたりしたこともあるようです。県下の教職員の研修を全部、センターが行っているのではなく、各課が行っているもあります。香川県の研究研修推進委員会で協議して、1年間の研修内容を決めていきます。令和元年度の研修はもう決まっています。研修の重なりももちろんそうですし、最近話題になっているのは、夏季休業中の先生方の働き方です。文科省から、夏季等の長期休業期間における学校の業務の適正化等についての通知も出ていて、今後センターの方針としては、研修を軽減していくという方針です。おそらく、他県と比べても早くから軽減を行っていますが、大事な研修はしなければならない。夏季休業中の開

	催時期も含めて、次年度のことになりますが、おそらく今日だけでなく、今後いろいろな方面からこの質問は出てくると思いますので、十分検討して研修の質を落とさないように実質的負担を減らせるように考えていきます。ご迷惑をかけておりますが、よろしくお願いします。
委員	企業の場合、公的資格を取るとか社内で特有益な資格を取る場合、研修のモチベーションを維持するのは、わりにそんなに難しくないのですが、何年目研修とかいう教員研修では、本人のモチベーションが下がるということはないのでしょうか。
事務局	たぶん研修実施年に研修が始まった時には、今年は研修の年だと思う人は、多いと思います。中央研修やその他の研修を重ねていると、改めて研修は大切だと思う方が多いので、受講者の評価にそれが表れているのではないかと思います。受講者評価を見てみると、改めて参加してよかったという声の方が多いです。しかし、様子を見てみると、やはりモチベーションが低い方はゼロではないです。そのような方のモチベーションをどうやって上げるかというのが、我々の仕事だと思っています。
事務局	教員については、法令で研修が義務付けられていて、しかも初任研、7年目、11年目は法定研修、いわゆる法令で決められている研修なので、仕方なく来ているようなことはあると思います。ただ、本当に研修を受けてよかったと言われるようにすることが、センターの役割だと思います。モチベーションの面で言いますと、先ほど説明をさせていただいた、香川大学の教職大学院との連携研修では、今後、ラーニングポイント制を検討するなど受講者のモチベーションにつながる工夫をしていきたいと思っています。企業の研修ノウハウも学ばせていただいて、どういったふうにやればモチベーションがあがるのか、ご指導いただけたらと思っています。

○教育相談事業について

委員	SNS相談のリーフレットについて、高校生にアピールが足りない気がするのですが。
事務局	要望はしたのですが、他の自治体や文科省の意向も入っており、3県の共通のリーフレットなので香川県の要望は全部反映されていません。
委員	この情報は、学校の教育相談部長など係には伝わっていますか。
事務局	高校教育課から第一報として、各学校の校長及び教育相談担当者あてに概要をメールでお送りしています。その後、公文書及びリーフレット、相談案内カードをセンターから送っています。
委員	3県合同ということですが、どの県も高校、特別支援学校の高等部の生徒が対象となっているのですか。小学校や中学校が対象となっている県はありますか。
事務局	受託している業者より、小学生は対象にしていないと聞いています。現時点では、他県の状況は把握していません。

委員	特別支援学校への入学を考える子どもの中には、不登校の子がいます。中には、中学校までどこにも相談できていない子もいます。教育センターの相談窓口を、もっと学校に周知し、支援学校のコーディネーターから保護者に伝えてもらえたらよいと思います。
事務局	周知したいと思っています。

○カリキュラムセンター事業について

委員	さぬき学びの支援隊について、1つ伺いますが、小中高校の校種毎の派遣人数に特徴のようなものはあるのか。また、再雇用の先生とは違うのですか。その点をご説明いただければと思います。
事務局	まず、校種ですが、高校はありません。小中の方で支援隊を行っております。圧倒的に小学校が多いです。学校数も非常に多いので。最近子ども一人一人への対応の充実を考え、依頼が増えているように思います。
事務局	再任用の教員の場合は、県教委が再任用を募集して応募し、正式な教諭として採用される。こちらは学校からの依頼に対しての派遣になります。昨年度のこの会でも部活の指導をお願いできないかという話だったのですが、趣旨としましては、直接子どもへの支援ではなくて、先生方への支援をする事業です。再任用の教諭に関しましては、子どもへの教科の指導等ができます。派遣時間、予算に限りがあるのですが、要望が多く、大いに学校現場に活用されていると思います。

○その他について

委員	教育相談の話は大変興味深く、もっと聞きたいことがいっぱいある。先生自身からのご相談のデータはありますか。
事務局	先生方が、指導に悩まれる、またご自身のことで悩んでいるという相談は、少なくともありませんが、上位には入っていません。
委員	教室に行くと様々な子どもが増えています。その子たちと一緒に授業したりとか、個別に授業したりとかしているんで、今、現場の先生方は、日々いろんな課題と直面しながら、これから先の子どものことを考えていかなければいけない課題が多いと思うのですが、そういう意味で教育センターの果たす役割は、すごく大きいと思います。本当に先生方の必要としている研修をうまく組んでいただいて、しかも負担がないと感じられるように、今日来てよかったと思う研修をぜひ続けていただきたいと期待しています。よろしくお願いします。
委員	センターだよりは、いつも丁寧な記事で参考になっていることが多いです。ネットトラブルとか例をあげて、課題・参考になるもの、どう対応すればよいかなど、こういう相談が来たらこういう対応をしたらいいですよと日々悩んでいる先生方に参考になるようなもの、個人情報省いて事例としてそういうものがたくさんあると、すごく参考資料として役立つという材料がいっぱいセンターにあると思うので、紙面にいろいろ載せて情報をいただけるとありがたいです。

事務局	オンライン研修サイトの方に「相談のいろは」というのを載せています。
事務局	紙面提供できるように検討したい。
委員	先生方は、時間がなく、朝の時間に紙で見ている。なかなかセンターのオンライン研修サイトを開いて見にいかない。またそこにあるの知らない職員もいて、オンライン研修サイトまでたどりつかない。
事務局	ありがたいお話で、非常に言いにくくなったのですが、センターだよりも紙媒体で配るのもやめようと考えています。今のお話を聞いたら非常にやめにくいのですが、広報の方法を考えていきます。
委員	オンライン研修サイトまで見ない現場の先生がいると思います。オンライン研修サイトを見にいくための情報がほしいです。情報を載せるだけでは知っている人しかわからない。サイトを見に人を増やすための情報をお願いします。
事務局	教育センターホームページのトップページで新たにアップしたオンライン研修、アクセス数の多いオンライン研修などの情報提供を行います。